

メールBOX

J R 東日本労働組合
水戸地方本部
発行者 / 根本 龍太郎
編集者 / 教 宣 部

JR労働者が働きやすい職場づくりと 社会の一翼を担う労働運動をつくろう！



水戸地本第4回定期大会

8月25日、日立勤労福祉会館において「JR労働者が働きやすい職場づくりと社会の一翼を担う労働運動をつくろう！」をスローガンに「第4回定期大会」を開催した。来賓では、国会議員をはじめ、支援を頂いている友誼団体の代表など多くの皆さんから激励の挨拶がされた。安全の確立を最優先とし、労働条件の改善、組織強化・拡大に総力をあげ取り組むことを確認し、向こう一年の運動方針を決定した。

大会は、大塚副委員長の開会挨拶ではじまり、議長に山岸分会長を選出し、以後の議事を進行した。執行部を代表して、九州北部と新潟、秋田県を中心とする豪雨で被害に遭われた方たちへのお見舞いを申し上げるとともに、水戸地本主催の関東ブロック交流会が成功裡に出来たことへの組合員への御礼。そして「依然と高い放射線量がある常

磐線の開通問題」「安全の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」等、多くの課題がある。「JR労働運動の大同団結・一元化を目指すとともに、多くの社員から共感され、信頼される労働組合にならないければならない」と決意を述べた。来賓あいさつとして、連合茨城・和田会長からは、まず最初に大井川鉄道の70年〜80年前のSL、60年前の電気機

関車が現役で走っている姿を見て涙が出るほど嬉しかった事等が話され、鉄道が大好きな事がひしひしと感じられた。そして、連合茨城運動の一つの運動の「平和を守る・平和を求める運動の取組みは当たり前であり、安心して暮らし働くすべての礎である。次の世代に引き継ぐことが役割である」等の他、連合茨城の運動の取組みが紹介された。

《委員長挨拶》 (要旨)



九州北部と新潟、秋田県を中心とする豪雨により、亡くなった方のご冥福を祈ると共に怪我をされた方の回復と一日も早く復旧・復興することを願っております。

早いもので東日本震災から6年5ヶ月が経過した。当初は、いわき〜亶理間が運転見合わせ区間であったが、会社、社員と協力会社が力を合わせ復旧・復興に努力してきた結果2017年8月現在で浪江〜竜田間を除いて運転を再開している。10月には竜田〜富岡間が再開を予定している。皆さんが力を合わせた結果だと考える。しかし、喜んでばかりではいけない。富岡〜浪江間は一番空間線量が高い地区であり、社員・お客様の安全が確保されなければ再開をさせることは出来ない。機会あるごとに会社と話し、申し入れをし交渉してきた。更に本部・本社での交渉を実施してきた。私達は、安全の確立が最優先課題であり安全のルールの見直しや、JR東日本グループ全体の安全の裾野を拡大し、会社に労働組合の意見を反映させるよう本部と共に交渉していきたいと考えます。

JR東日本の2016年度決算では、単体決算は営業収益・運輸収入は5期連続の増収かつ、過去最高。連結決算は営業収益は5期連続の増収かつ、過去最高であった。2017年春闘時に「組合員一人一行動」運動と、春闘スローガンの取組み、本部大会までに「一人一要求」運動の取組みを行った。今後も全組合員の参加をお願いする。冬のボーナスや来年の春闘を本部と共にみんなで勝ち取る。

昨年の大会以降11名の仲間が加入している。組織拡大は、最大の課題であり水戸地本も一層の努力・交流をし、我々ユニオンの想いやDNAを平成採に引き継ぎするためにも組織拡大をしなければなりません。その先に「JR労働運動の大同団結・一元化」があるのです。多くの社員から共感され、信頼される労働組合にならない。また、本部佐藤委員長の新体制に水戸地本も協力し、一日も早くJR連合に加盟出来る助けをしたいと思います。

政治に関しては、東京都知事選での自民党の大敗、しかし民進党は伸びませんでした。原因を調査し次期選挙には受け皿になるよう民進党には努力してもらいたい。

安倍政権では、前稲田防衛大臣の問題、森友学園、加計学園問題が解決されないままになっている。東京では、青山の病院移設や、築地の移設、議員宿舎の建て替え等問題が山積みです。民進党にはここで力を発揮してもらいたい。そして全国で3つの補欠選挙がありますので、民進党にはきちんと推薦候補を出し、勝利してもらいたいと思います。

最後に6月24日に大洗で開催した地引網とバーベキューに関東6地本の参加を頂き100名を超える組合員や家族、他労組からの参加もあり盛大に交流会が出来たことに御礼を申しあげます。準備に参加してくれた皆さんにも御礼を申しあげます。

この絆を大切に皆さんと一緒に組織拡大に繋げよう。



大森中央執行副委員長

その後、支援を頂いている優先団体の代表の皆さんから激励の挨拶がされた。



郡司参議院副議長

次に、参議院副議長の郡司参議員からは、選挙の感謝と御礼と、平和運動の取組みの大切さ、経済格差・非正規雇用者問題について「働く人たちの立場になった世の中を作るために真剣に考えたい」と、あいさつされた。



連合茨城和田会長



大会をスムーズな進行で導いた山岸分会長

大森中央執行副委員長からは、「技術継承や安全に関わる問題」「エルダー制度の問題」「線量が高い富岡〜浪江駅間の原発被災線区の開通問題」「JR発足30年、あらゆる労働条件・労働環境との環境の総点検行動の取組み」等、公正・公平で働き甲斐のある職場づくり、そして労働条件の向上を目指し、合わせて組織強化拡大を全力で取り組んでいく。またJR連合加入については道筋をつけられるよう、本部としても努力していくと報告された。

集約答弁(要旨) 郡司書記長



私たちは安全の確立が最優先の課題であり、安全の視野を拡大し、重大インシデントが発生した際の再発防止策の策定プロセスに、労働組合の意見を反映するような労使協議の場を求めてきた。昨年8月に連続した安全・安定輸送に関わる事故が発生し申し入れをした。明らかになったのは、根本的な技術低下や人材育成の課題について取り組みが不十分であるということである。私たちは、ハード偏重の対策ではなく、将来に向けた人間労働の役割と求められる社員像、積み上げてきた技術の評価や将来に継承すべき技術課題などを、安全経協の開催に向け追求していく。そして原発についても、分会と本部で連携をして取り組む。組織強化・拡大は緊急課題である。分会代表者会議、地本対話集会を定例で開催してきた。組織拡大は、継続的な運動が必要であり、やり続けな

ければ拡大に繋がらないという気持ちを高めていかなければならない。地本対話集会に結集をし、一人ひとりが何をすべきなのかという認識を作り上げていく必要がある。そのために具体的な対策を関係職場と調整をしながら進めていく。また、今後の組織体制については、分会の再編・統一が必要である。今回の大会で承認を得、大会以降、関係分会は、解散大会及び統一大会と進めてもらいたい。そして関係分会及び地本と調整を図りながら進めていきたい。

本部の取組みの「JR発足30年、あらゆる労働条件・労働環境の総点検行動」で作りに出した「一人一要求」の取り組みに於いて、8%の集約率であり、まだ、提出をしていない組合員については、分会を通じての集約をお願いしたい。現在、本部に於いて本部・本社での協議要求及び地方での協議要求との整理中である。地本では、職場に於ける要求等については、整理をし、改善に向けた申し入れをしていく。労働運動の原点は職場であり、一人ひとりがしっかりと労働者としての物の見方・考え方を作り上げながら、職場の問題点及び会社・他労組の動向を出し合い共通認識へと進めていくことであり、職場で個人解決をさせずに全体化していくことである。昨年の大会以降様々な問題点が発生し分会と連携し、申し入れを行ない、問題点等を団体交渉及び会社との水面下での協議等により解決をしてきたという成果もある。

今年10月ダイヤ改正に於いては、解明要求及び行路問題を分けて申し入れをしていく。また、行路問題については、運転士・車掌両協議会が中心となり関係分会と連携し提案後早急に申し入れをしていく。対話集会をベースにし、分会と連携を図り労働条件改善に向け取り組む。

私たちに求められるのは、機関に結集する努力と、各取組みに「何故必要なのか」という突き詰めた議論をしながら、組合員一人ひとりが愚直に運動を進めていくことを確認する。と集約し、すべての議案が満場一致で可決した。

役員改選では齊藤・木田(邦)執行委員が退任され、新たに小松崎執行委員、寺門会計監査員が選出された。その後大会宣言を採択し、最後に、根本執行委員長の団結ガンパローを三唱し閉会した。

あいさつをいただいた「来賓のみなさま」(敬称略)

連合茨城和田会長、郡司参議院副議長、衆議院議員・大島章宏(代理)、衆議院議員・福島伸亨(代理)、水戸市議会議員・堀江恵子、中央労金・川又支店長、交運共済・松井東日本事業本部長、鉄道退職者の会・湯澤会長 (順不同)

メッセーシ(敬称略) 衆議院議員 大島 章宏 福島 伸亨 民進党茨城県連 第5総支部長 浅野さとし 関東鉄道労働組合 執行委員長 渡邊 裕 JR東日本労組 各地方本部

水戸地本執行部体制

Table listing the organizational structure of the Waterbury Local Union, including Executive Committee members and various departments like Accounting and Supervision.

大会宣言

私たちは、本日「日立勤労福祉会館」において第4回定期大会を開催し、「JR労働者が働きやすい職場づくりと社会の一翼を担う労働運動をつくらう！」のスローガンを掲げ、安全確立、組織の強化・拡大、労働条件向上の取組みについての運動方針を満場一致で確認した。

JR 発足30年が経った今でも、現場では重大インシデントが後を絶たない。安全は労使共通の課題である点を踏まえ、人命を脅かしかねない鉄道事故が連続して発生している現実を、労働組合として主体的に捉え返さなくてはならない。人命を守ることの重要性を再認識し、安全対策について徹底的に会社側と議論し、グループ会社を含めたJRに働くすべての人の命を守ることを労使共通の課題として、今後も弛まぬ研鑽を積み重ねていくこととする。

水戸地本は大量退職期を迎え減少の一途を迎えるという状況にあり、このままの状況が進んでいけば数年後には水戸としての組織が無くなるのは間違いのない現実です。組織強化・拡大は重要かつ最優先課題として取り組まなければならない。労働組合の基本である「労働条件の維持・向上」を通じたさらなる組織強化・拡大にむけ全力を上げて取り組もう。組織強化・拡大に近道はありません。職場においての世話役活動を地道にし、組織強化・拡大を実現していく。

常磐線の開通問題では、2016年12月10日に相馬～浜吉田間、本年4月1日に浪江～小高間が運転再開され、浪江～仙台間が一本のレールで結ばれた。竜田～富岡間は本年10月21日に運転再開が予定され、現在の不通区間は竜田～浪江間になっています。安倍総理から指示を受けた国交大臣は、大部分が放射線量が高い「帰宅困難区域」の「富岡～浪江間を2019年度末までに全線運転再開を目指す」と第15回復興推進会議で発言をした。鉄道が開通することは喜ばしい事だと思ふ。しかし、現在でも放射能は漏れており、除染をしたからといっても、そこで働く社員は見えない放射能と向き合い、不安を持ちながらの業務に就かなければなりません。現場で働く社員の不安解消に向けた運動とともに、社会の基幹インフラとしての鉄道の安全・安定輸送を守るために、全力を挙げて取り組んでまいります。

今後も組合員の声に耳を傾け、全ての労働者の命を守るために声を出していく。常磐線原発被災区間の運転再開に関する様々な問題点は、本部に最大限の協力をすると同時に現場で働く社員の不安解消に向け、本部とともに運動を進めて行く。

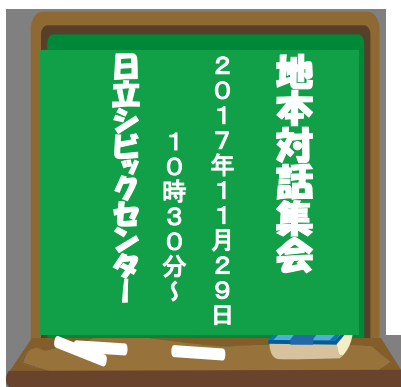
私たちは、山積する諸問題の一つひとつ組合員の立場にたって解決にあたり、運動の原点である職場から運動をつくり上げていかなければならない。そのためにも、本大会での議論を職場の隅々まで浸透させ、組合員が主役の労働組合運動を全組合員で創り出していこう。

以上、宣言する。

2017年8月25日
JR 東日本労働組合
水戸地方本部
第4回定期大会

【2017年度執行委員会任務分担】

執行委員長	根本 龍太郎	総括、共闘
執行副委員長	大塚 正 則	組織・教宣部担当部長
〃	栗原 康 浩	組織部長、水郡営業所分会担当
〃	河原井 敦 司	教宣部長、総括補佐、営業協議会、共闘
書記長	郡 司 伸	企画部長、法対部長、各部補佐、交運共済、県交運、共闘補佐
執行委員	坂本 良 夫	業務部長、輸送協議会、水戸駅連区分会担当
〃	入 江 透	財政部長、車掌協議会、水戸地区運輸分会担当
〃	長谷川 道 夫	教宣担当部長、運転士協議会、土浦地区分会担当
〃	高 木 茂	調査部長、いわき・日立地区分会担当
〃	木 田 昌 宏	業務部担当部長
〃	小松崎 克 巳	財政担当部長、水戸地区運輸分会担当補佐



- ※時間・場所は地方本部に
お問い合わせください
- 10月4日 仙台地本第3回 団結芋煮交流会
 - 10月7日 本部輸送協議会
 - 10月25日・26日 第3回定期委員会
 - 10月27日 第4回本部ゴルフ大会 連合茨城
 - 10月30日 第25回定期大会 いわき・日立・原ノ町地区分会統一大会
 - 11月6日 本部営業協議会
 - 11月9日 第3回定期委員会 第2回水戸地区分会統一会議
 - 11月27日 本部運転士協議会 第3回定期委員会